

2021年度 秋季要請行動執行委員長あいさつ

本日の要請行動を皮切りに、教育委員会との確定交渉が始まります。

組合と県教委は、かつては激しく対立する場面もありましたが、私は、労使関係の上では雇用者と被雇用者という立場の違いはあっても「より豊かな教育を子どもたちに施す」という共通した目的に向かって進むもの同士として、両者は決して対立するものではなく、互いに補完し合う関係だと考えています。

ただ残念ながら、二者間の風通しはあまり良くなく、時にそれぞれ別の風景を見ながら仕事をしていると感じます。

今、学校現場で何が問題なのか。ここにいるのは、目の前に生徒がいて、同僚がいて、管理職がいる学校職員です。現場からの要求、生の声をしっかりと聞いていただきたいと思います。

そして、ここで述べられる要求は一体何を意味するのか、そしてその原因は一体何なのかを考えていただきたいと思います。

かつて若い頃、国語の教科書で「高速道路を歩いた牛」という文章を読みました。「牛が高速道路歩いている風景」をどう見るか。ある人は、のどかで呑気な風景と見るかもしれない。しかしとんでもない、これはものすごく危険な状況なんだと、そういった内容の文章でした。

ここで求められるのは確かな想像力です。それがないと、現実を見誤ってしまいます。

皆さんにお願いしたいのは、まずは、これから述べられる言葉を具体的な現実として思い描く想像力です。そして、この現実が生徒たちにどのような影響を与えるかをリアルに思い描く想像力です。そしてさらに、この現実が未来にどうつながっていくかを見られる想像力です。

「そんなことは分かりきってますよ」と思われるかもしれませんが、でも、時々「あれ」と思うことがありましたので、あえてお話しさせていただきました。

今日はよろしく申し上げます。